

氏名	大 西 徹 哉
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博乙第 2050 号
学 位 授 与 の 日 付	平成元年 9 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Treatment with Monoclonal Anti-IL2 Antibody Prolongs Cardiac Allograft Survival in Rats (単クローン性抗 IL 2 抗体によるラット移植心生着延長効果)
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 赤木忠厚 教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Interleukin-2 (IL2)が、キラーT細胞の誘導を通して、同種細胞移植片拒絶に関与していることは、現在広く認められているが、本研究では、単クローン性抗 IL 2 抗体を用いて、その抗体の特性及び、F 344 → ACI という RT 1 完全不適合のラット心移植の系において、同抗体の移植心への特異的集積性と、その生着延長効果につき検討した。単クローン性抗 IL 2 抗体は CTL 中和活性を抑制し、RIA アッセイでは IL 2 に強い結合活性を示した。移植後、経時的に ¹²⁵I 標識単クローン性抗 IL 2 抗体の集積臓器をシンチレーションカメラを用いて検討すると、移植心に著明な集積を認めた。又、対照群に比して有意な移植心生着延長効果を認めた。これらの結果より単クローン性抗 IL 2 抗体は、拒絶反応における免疫抑制剤として有用でありかつ又、移植拒絶の診断に関する造影剤としても、その臨床応用に期待できるものと考えられる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は移植免疫に関する実験的研究であるが、ラットを用いて心移植を行ない、単クローン性抗 IL 2 抗体を用いて同抗体の特性及び移植心への特異性集積性及び移植心の生着延長効果に関して重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。